

保護者の皆様

青陽須磨支援学校

校長室だよ

令和7年3月3日発行

★平和だからこそ行える卒業式★



立春から早や1ヶ月。2月は雪が舞う日が続き、寒の戻りが骨身にしみる日々でした。今日3月3日は桃の節句、ひな祭りの日です。うららかな陽光がおひな様にも降り注ぎ、ようやく春の訪れを感じられるようになりました。5日は啓蟄（けいちつ）。冬ごもりをしていた虫たちが土中から這い出てくる時期であり、南寄りの強い風、春一番もそろそろ吹き届く頃でしょう。保護者の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。



青陽須磨支援学校にもいよいよ「旅立ちの季節」がやってきました。7日（金）は高等部、18日（火）は中学部・小学部の卒業式が執り行われます。卒業生の皆さんにとっては青春の1ページを刻む人生の節目の日です。先生たちと一緒に学び体験したことや絆を深め合った仲間との出会いを改めて振りかえるひとときとなることでしょう。穏やかな心もちで卒業式を無事に執り行えることは、ありがたく幸せなことであると思っております。

なぜなら、私たちが災害や紛争など予期しないことに遭遇する確率は決して0%ではないからです。日常の当たり前のことが当たり前でなくなることが、現に毎日どこかで起きています。日本は今年、戦後80年の節目を迎えます。私たちは現在、幸いにも平和な世の中に生きています。しかし世界に目を向けると、例えばロシアの侵攻から3年を経過したウクライナの高校では、防空警報が鳴り響く中、さまざまな基礎軍事訓練が必修化され、祖国の防衛に資する教育に力を入れているそうです。また、小学校では授業が始まる前に兵士らに感謝と敬意を示すための黙とうをささげる「静寂の1分間」の取り組みや、兵士が前線で使用するための迷彩ネットの製作を担っていると聞きました。子供たちは気の遠くなるような長い期間、日夜命の危険にさらされ、恐怖におびえながら自由が極端に制約された中で生きているのではないのでしょうか。

平和を維持するには、何よりも私たち一人ひとりの不断の努力が必要です。世界で今何が起きているのか、真実を見定め受け止めるだけでも平和を守るには必要不可欠な行動です。普段から人権尊重の心を大切にすることが子供の教育を守ることにも繋がると考えています。卒業生の保護者様におかれましては、入学から卒業というハレの日までの長きに渡り、お子様を優しく見守り導き、教職員とともにお子様の成長に寄り添っていただいたことに深く感謝申し上げます。

2/25（火）・26（水）・28（金）の個別懇談会では、この1年をかけてお子様が努力したことや成長の軌跡とともに振り返り、共有させていただきました。今後とも教職員と心を合わせて、お子様への協同支援をどうぞよろしくお願いいたします。3/24（月）は令和6年度3学期の終業式・離任式を予定しています。 文責：寺沢 光明